

挙となった。極めてユニークな案ではあったが22票にとどまった。ちなみに長瀬道医会長は7期目で、日医筆頭理事となっている。

以後、監事選挙、裁定委員選挙は定数で選任され、新執行部の挨拶となった。当初は相当な時間がかかるかと思われたが、自動集計器が順調に作動し、選管の采配も適切で、一日目は15時半前に終了となり散会した。

当夜、横倉日医会長候補選挙対策本部主催の報告会がホテルオークラで催された。中川副会長、長瀬理事、深澤議運委員、藤原財務委員、北野選管委員長を含め多くの関係者が参集された(写真3)。



(写真3)

二日目は横倉会長の所信表明と代表質問・個人質問である。久しぶりに早々と15時半に終了する代議員会となった。内容は本編をお読みいただきたい。

過去の日医選挙では、キャビネット型の選挙が多く、会長が決まれば推薦外の副会長・常任理事は辞退して新執行部が発足したという。

一方、2010年はキャビネット選挙を掲げず、会長に4候補、副会長に8候補、常任理事に19候補(う

ち2候補が辞退)が名乗りを上げた。当選が有効投票の3分の1で決まるという当時の選挙規定のなかで、原中勝征会長が当選したが、副会長を含め多彩な役員との間の意思不統一が問われ、執行部のあり方に議論が多々あったという。その後、過半数当選など規定改正があり、2012年は議長に3氏が立候補して加藤寿彦議長(愛知)が選任され、会長選挙は一回目が横倉義武氏(福岡)154票、原中勝征氏(茨城)137票、森洋一氏(京都)65票で、再投票の結果横倉新会長が誕生し、副会長は今村聡氏286票、中川俊男氏276票、羽生田俊氏(群馬)220票、松原謙二氏149票で前3者が当選。常任理事は定数10名に13名が立候補し、理事、監事、裁定委員は定数無投票であった。また、前々回2014年は副会長選挙のみで、中川俊男氏334票、今村聡氏324票、松原謙二氏297票、塩見俊次氏75票となっている。前回2016年は会長選挙のみで、横倉義武氏317票、石井正三氏41票であった。

縷々、知る範囲の日医選挙を記してみた。

日医会長は激職である。また、日本の医療ビジョンを最先端で掲げる人ともなる。次期をどなたが務めるか、当然、現時点で決まっているわけではないが、次回の2020年まで1年強の期間がある。しっかり考え準備していただきたい。

日本の少子高齢化は目前というより現実である。保険料・公費・自己負担等の医療費を闊達に?なんとか?集められる時代はいつまで続くのか。介護に充てる若年人口などありうるのか。日本の産業のあり方を含め、難題を解く時間は多くはない。少子化を防ぐ真っ当な道は、若者の夢と未来を創ること。どんな福祉事業・政策よりも、給料を上げ、心に身体にゆとりをもたせ、自信をもってもらうこと。そんなことを考えながら、帰りの飛行機に乗った。

## 電子メールによる会員への情報提供について

### —メールアドレスの登録—

◇情報広報部◇

本会では、インターネットを利用し、電子メールにより緊急性の高い情報を、会員の皆様へ送信提供しております。対象は当会の電子メールアドレス利用者全員と他プロバイダの電子メールアドレスをお持ちになっていて、本会にアドレスを登録している会員です。

他プロバイダの電子メールアドレスの登録につきましては、随時受け付けておりますので、是非ご登録いただきたくご案内いたします。

#### ●電子メールアドレスの登録方法

電子メールで、ご氏名、登録メールアドレスを明記のうえ、下記宛お送りください。

・申込先メールアドレス：[add@m.dou.jp](mailto:add@m.dou.jp)